

平成 26 年 5 月 1 日

会員各位

浜松市ファミリー・サポート・センター

援助活動にあたっての確認事項

平成 26 年 3 月、インターネットのマッチングサイトを通して預けられた子どもが、ベビーシッターを名乗る男性宅から遺体で発見されるという大変痛ましい事件が発生しました。ファミサポの活動の意義・役割はネットを介して行われるベビーシッターとは全く異なるものですが、1 対 1 で子どもを預かる活動であることから不安を感じた方もいらっしゃるかと思います。

この事件を受け、全国ファミリー・サポート・センター事業の運営支援を行っている団体から、ファミサポの援助活動の意義と役割を再確認する文書が配信されました。以下に一部を抜粋し紹介いたしますので、会員の皆様には、今一度、ファミサポの意義・役割をご確認いただき、安心・安全な援助活動のためにご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

「ファミサポは、地域で生活する会員同士が助け合う「相互援助活動」として行われます。お金で雇われた主従関係ではなく、会員同士は対等な関係であり、ファミサポの活動を通して、地域における親(依頼会員)の生活にも「安心」や「元気」が得られ、親子(依頼会員)と育児支援をする人(提供会員)とが、互いの信頼関係を築いてきました。

このように、親と子が、地域の人と出会い、信頼関係を育て、地域に生活の根を下ろしていく、そのきっかけともなるところにファミサポの意義があり、子どもたちの育ちを地域で支える仕組みとして社会的にも重要な役割を果たしています。

ファミサポでは、これまで一貫して、「子どもを預かる」ことは即ち「子どもの命を預かる」ことであると、その責任の重さを認識した上で「安心・安全」な活動を心掛けています。そのため、活動の前の「事前打ち合わせ」を必須とし、お互いが顔を合わせ、納得して、初めて、正式な活動に入ります。しかし、こういったプロセスに対して「子どもを預けたい時にすぐに預かってもらえない」と、手続き面での煩わしさを指摘する意見も一部見受けられました。

ただ、このような悲しい事件が起きた今、ファミサポが行ってきたプロセスは一見面倒に見えても、安心・安全のために大事であり、決しておろそかにすることはできないと、改めて認識できました。」

「ファミリーサポートネットワーク通信 vol.28(2014.4)
一般財団法人 女性労働協会発行」より引用

【浜松市ファミリー・サポート・センター 事務局より】

ファミサポの援助活動を行っていく上で、「安心・安全」が何よりも優先されなければなりません。「事前打ち合わせ」は必ず行い、お互いに顔を合わせ、信頼関係を大切にしていきましょう。